

報告

山梨県におけるオヒキコウモリの追加記録 1 例

(受付 2019年10月20日 受理 2020年1月21日)

清水海渡¹、末廣友里²

An additional record of Oriental free-tailed bat, *Tadarida insignis* in Yamanashi prefecture

Kaito SHIMIZU, Yuri SUEHIRO

要旨

オヒキコウモリは、「環境省レッドリスト2020」および「2018山梨県レッドデータブック」で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。筆者らは山梨県内で3例目となる本種を確認した。2018年10月16日13時10分頃、山梨県大月市大月町にある国道139号線沿いのトンネルにおいて、壁面に匍うような姿勢で休息していた。翌日は確認されず、その後も継続して訪れたが、確認できなかった。現在までに山梨県へ隣接する都県での本種の確認も単独個体の記録のみであり、最も近くで確認されている集団は、直線で約100km離れた伊東市城ヶ崎海岸の集団で、そこの往来については不明である。今後は、今回と同様、移動期の一時利用となる可能性のある場所の継続的な探索調査をするとともに、活動期の生息場所の把握や越冬場所の確認などの調査を行い、個体群としての情報収集が必要である。

キーワード：オヒキコウモリ、山梨県、大月市、*Tadarida insignis*

Keywords: Oriental free-tailed bat, *Tadarida insignis*, Yamanashi, Otsuki city

I はじめに

オヒキコウモリ *Tadarida insignis* は北海道および本州、四国、九州に生息し、日本国外では中国および、台湾、朝鮮、ロシアのウスリ地方に生息する (Sano, 2015)。本種は、食虫性コウモリ類の中では大型 (前腕長約 60 mm) で、耳介は丸くて大きく、尾が長く (約 50 mm)、翼は狭長で飛行速度が速く、長距離飛行に適したコウモリとして位置づけられている (船越ほか, 1999)。1999年までは日本各地において単独個体が衰弱した状態や死体で記録された例が多く、日本では繁殖しておらず、大陸から飛来するものであると考えられており、環境省で選定された最初のレッドリストである「日本の絶滅のおそれのある野生生物—脊椎動物編」(環境庁自然保護局野生生物課, 1991) では、分布値や分布域が限られているが、危急種や絶滅危惧種への指定判断情報が不足している種として希少種 (R) に指定された。

しかし、1999 年以降、宮崎県（船越ほか，1999）および高知県（船越ほか，2001）、において数十頭の繁殖集団が発見され 2002 年発行の「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 哺乳類」（環境省自然環境局野生生物課，2002）では、絶滅の危険性を評価するだけの情報が不足している種として情報不足（DD）に指定された。その後も広島県（寺山，2002）、京都府（前田，2002）、三重県（山本ほか，2006）、において夏季集団が発見され、「環境省レッドリスト 2007」（環境省自然環境局野生生物課，2007）では、情報の集積が進んだことを踏まえ、出現範囲が狭く、過度に分断されており、個体群の成獣個体数が 2,500 頭未満であることなどから絶滅危惧 I B 類に指定された。その後、静岡県（佐藤ほか，2011）、で数十頭の繁殖集団が見つかり、他の集団も継続的に生息していることから 2014 年に発行された「レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—1 哺乳類」（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2014）においては、生息地が過度に分断されており、出現範囲について継続的な減少が予測され、10 年間のうちに 10%以上の減少が予測されるとして絶滅危惧 II 類（VU）に指定されている。近年では、鹿児島県の新幹線高架橋にある隙間で数十頭の夏季集団が見つかり（船越ほか，2016）、熊本県では国内初となる越冬集団も新幹線高架橋の隙間で観察されている（船越ほか，2020）。これまでに国内では 30 カ所ほどで見つかりはいるものの、集団が確認されているのは、8 カ所となっている（Sano，2015；船越ほか，2020）。最新の「環境省レッドリスト 2020」（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2020）では、2014 年と同じく絶滅危惧 II 類（VU）に指定されている。

山梨県におけるオヒキコウモリの記録はこれまでに 2 例ある。一つは、1992 年の春に都留市の都留文科大学（コウモリの会編集部，1999）で見つかったもので、冬眠後の春の移動中と考えられており、もう一つは 1997 年 5 月に旧河口湖町の船津小学校（白石，1998）で 1 個体が保護された記録である。山梨県で最初に発行された「2005 山梨県レッドデータブック 山梨県の絶滅の恐れのある野生生物 動物」（山梨県森林環境部みどり自然課，2005）では大部分の生息地（繁殖地、越冬地等）で生息条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少しており、近い将来は、絶滅危惧 I 類に移行することが確実との判断で絶滅危惧 II 類（VU）に指定された。最新の「2018 山梨県レッドデータブック」（山梨県森林環境部みどり自然課，2018）でも同じ判断基準で絶滅危惧 II 類（VU）に指定されている。今回、筆者らは山梨県内で 21 年ぶり、3 例目となるオヒキコウモリを確認したのでここに報告する。

II 確認状況

筆者は、2018 年 10 月 16 日 13 時 10 分頃に、山梨県大月市大月町にある国道 139 号線沿いのトンネルにおいて本種 1 個体を確認した（Fig. 1）。この個体は、頭を下向きにして壁面に匍うような姿勢で休息していた（Fig. 2）。本個体は、耳介が丸みを帯びて大きく、尾部も長く、尾部先端部は皮膜から長く出ている点などからオヒキコウモリと同定した。同年 10 月 17 日、18 日の同時刻に同所を訪れた際は、全く確認されず、その後、10 月 29 日、11 月 16 日、12 月 3 日、同 21 日にも訪れたが確認できなかった。

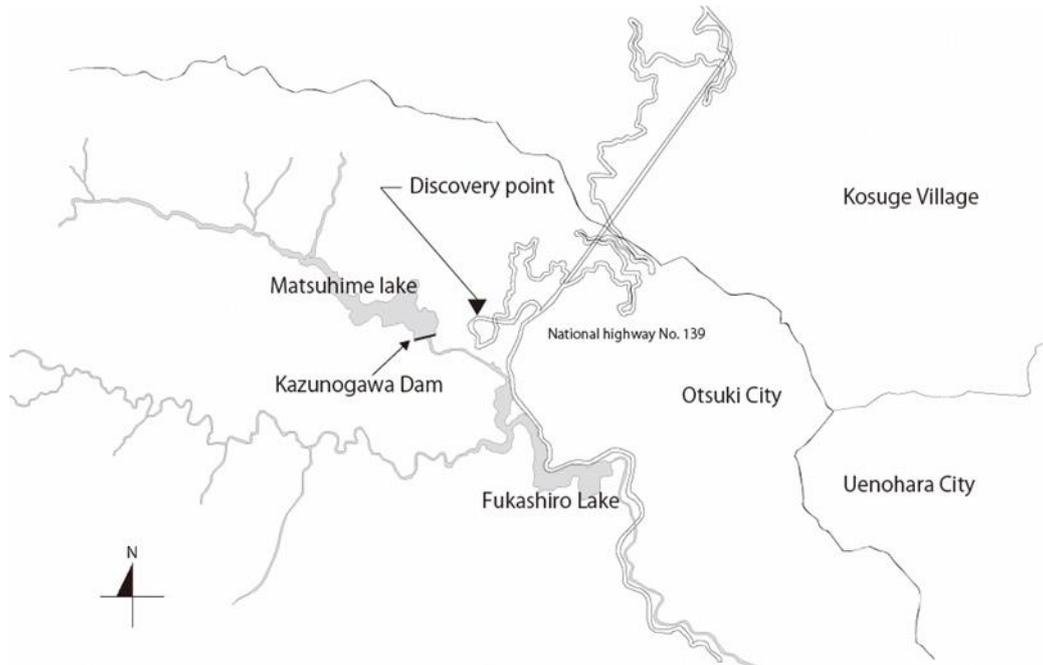


Fig. 1. The discovery location of the oriental free-tailed bat (*Tadarida insignis*) in Otsuki City, Yamanashi Prefecture.



Fig. 2. Oriental free tailed bat (*Tadarida insignis*) resting on tunnel wall in Otsuki City, Yamanashi Prefecture.

発見場所は、標高約 850 m に位置し、葛野川ダムに隣接するトンネルである。トンネルは延長約 200m、高さは約 7m、幅は約 10m、天井及び壁面は吹きつけ舗装がされている。個体がいた位置は外光が遮られ、暗闇であった。周辺は、落葉広葉樹二次林とスギ人工林が混在しており、道路に面しているが、自動車は通行止めとなっており、人の往来はほとんどない。また周辺 3 カ所のトンネルも同頻度で調査したが、本種は発見できなかった。

Ⅲ 考察

本種は、秋期頃に冬眠のために 40km 以上移動することが知られており(船越, 1999)、今回確認された個体も移動の途中で一時的にこのトンネルを利用した可能性がある。現在わかっている最も距離の近いオヒキコウモリの繁殖集団は、直線距離で約 100 km 離れている

静岡県伊東市城ヶ崎海岸にある燕黒岩であるが、ここと往来があるかは不明である。

山梨県内では今回を含め、3個体だけの記録であり、繁殖集団は見つかっていない。山梨県周辺では、神奈川県で3例 (Yoshiyuki, 1989; 浜口・一寸木, 1989; 山口・山口, 2009)、埼玉県で1例 (Yoshiyuki, 1989)、静岡県では前述の繁殖集団が確認されている (静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 2019)。長野県では本種と推定される個体の音声のみが記録されているのみで確証はなく (長野県環境部自然保護課, 2015)、東京都ではオヒキコウモリの記録はない (東京都環境局自然環境部, 2010)。静岡県以外はいずれも単独個体の確認であるものの、周辺地域から散発的に発見されていることから未発見の集団が周辺にいる可能性がある。

今後は、今回と同様、移動期の一時利用となる可能性のある場所の継続的な探索調査をするとともに、活動期の生息場所の把握や越冬場所の確認などの調査を行い、個体群としての情報収集が必要である。

IV 謝辞

元東京農業大学野生動物学研究室教授の吉行瑞子博士には種同定について御指導いただいた。(一財)上野原観光協会の松本裕樹氏およびNPO法人コウモリの保護を考える会の峰下耕氏には貴重な文献を提供していただいた。また、コウモリの会の辻明子氏には長野県でのオヒキコウモリの確認状況についてご教示いただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

V 引用文献

- 船越公威, 前田史和, 佐藤美穂子, 小野宏治 (1999) 宮崎県枇榔島に生息するオヒキコウモリ *Tadarida insignis* のねぐら場所, 個体群構成および活動について. 哺乳類科学 39 (1) : 23-33.
- 船越公威, 大澤達也, 永山翼, 佐藤顕義, 勝田節子, 大沢夕志, 大沢啓子 (2020) 九州新幹線高架橋で発見されたコウモリ類の生態, 特にオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の人工ねぐらの利用と食性について. 哺乳類科学 60(1) : 15-31.
- 船越公威, 山本貴仁 (2001) .高知県蒲葵島からのオヒキコウモリ *Tadarida insignis* 生息地の新記録. 哺乳類科学 41: 87-92.
- 船越公威, 佐藤顕義, 大沢夕志, 大沢啓子, 佐伯綾香 (2016) 鹿児島県の新幹線高架橋で発見されたオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の生息状況. 鹿児島県自然 42:5-11.
- 浜口哲一, 一寸木肇 (1985) 南足柄市で発見されたオヒキコウモリについて. 神奈川県自然誌資料 (6) 37-40.
- 環境庁自然保護局野生生物課 (1991) 日本の絶滅の恐れのある野生生物-レッドデータブック (脊椎動物編). 環境庁自然保護局野生生物課 東京, 331pp.
- 環境省自然環境局野生生物課, (2002) 改訂, 日本の絶滅の恐れのある野生生物-レッドデータブック-1 哺乳類. 環境省自然環境局野生生物課, 東京, 177pp.
- 環境省自然環境局野生生物課 (2007) レッドリスト 2007 別途資料 1 レッドリスト哺乳類. 環境省自然環境局野生生物課, 東京,
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/9941.pdf> (2020年4月1日アクセス), 3pp
- 環境省自然環境局野生生物課希少保全推進室 (2014) レッドデータブック 2014-日本の絶滅

- の恐れのある野生生物-1 哺乳類. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京, 132pp
- 環境省自然環境局野生生物課希少保全推進室 (2020) 環境省レッドリスト 2020. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京,
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/113667.pdf> (2020年4月2日アクセス).
129pp
- コウモリの会編集部 (1999) オヒキコウモリ捕獲記録. コウモリ通信 7(1) : p. 4.
- 前田喜四雄 (2002) オヒキコウモリ. 京都府レッドデータブック上巻 野生動物編 (京都府企画環境課, 編), p. 34.
- 長野県環境部自然保護課 (2015) 長野県版レッドリスト (動物編) 2015. 長野県環境部自然保護課, 長野, 234pp
- Sano, A. (2015) *Tadarida insignis* (Blyth, 1911). In: S. D. Ohachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (eds.), *The Wild Mammals of Japan, Second Edition*. Shoukadoh Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto, pp. 130-131
- 佐藤顕義, 三宅 隆, 山本輝正, 大場孝裕, 中川雄三, 大沢夕志, 大沢啓子, 山口喜盛, 山口尚子, 吉倉智子, 高山壽彦, 勝田節子. (2011) 静岡県伊東市城ヶ崎海岸燕黒岩におけるオヒキコウモリの集団ねぐら. コウモリ通信, 18: 2-4.
- 白石浩隆 (1998) 河口湖周辺のコウモリ. コウモリ通信 6 (1) : p. 6-9.
- 静岡県くらし, 環境部環境局自然保護課 (2019) まもりたい静岡県の野生生物 2019—静岡県レッドデータブック— (動物編). 静岡県くらし, 環境部環境局自然保護課, 静岡, 539 pp
- 寺山美穂子 (2002) 続, オヒキコウモリ観察記 修道に棲息するオヒキコウモリ *Tadarida insigni* の集団に関して. 修道中, 高等学校紀, 18: 1-41.
- 東京都環境局自然環境部 (2010) 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) ~東京都レッドリスト~ 2010 年版. 東京都環境局自然環境部, 東京, 125pp
- 山口喜盛, 山口尚子 (2009) 丹沢山地で確認されたオヒキコウモリについて. 神奈川県自然誌資料, (30) : 99-101.
- 山本輝正, 清水善吉, 佐野 明, 佐野順子 (2006) 三重県紀北町の耳穴島で確認されたオヒキコウモリ. コウモリ通信, 14: 2-4.
- 山梨県森林環境部みどり自然課 (2005) 2005 山梨県レッドデータブック 山梨県の絶滅の恐れのある野生生物. 山梨県森林環境部みどり自然課. 甲府, 243pp
- 山梨県森林環境部みどり自然課 (2018) 2018 山梨県レッドデータブック 山梨県の絶滅の恐れのある野生生物. 山梨県森林環境部みどり自然課. 甲府, 140pp
- Yoshiyuki, M. (1989) *A Systematic Study of the Japanese Chiroptera*. Natural Science Museum Tokyo, 242pp